世論（よろん）

発行所
日本世論の会
発行人　三輪　和雄
〒107-0062
東京都港区南青山7-9-8
電話　03-3407-0637
事務局
〒457-0014
名古屋市南区呼続五丁目13-15
電話　052-822-6621
ＦＡＸ052-811-2660
Email
yoronnokai@gmail.com
ブログ
ameblo.jp/nihonyoronnokai-honbu/
購読料1ヵ年3,000円（郵送料共）
振替口座：00830-7-36321

日本世論の会の目的

わが国の歴史伝統に照らして偏向する報道を修正し、公正な世論を普及することにより、世界の平和とわが国の安定に資することを目的とする。

参院選勝利！真の戦いはここから始まる

日本世論の会会長　三輪　和雄

参院選は予想通り、自民党の圧勝で終った。

昨年の自民党総裁選での奇跡の勝利をホップ、総選挙の大勝をステップ、東京都議選の完勝を経て今回の参院選でのネジレ解消をジャンプとして、安倍晋三氏の三段跳びは完結した。

一年未満という短期間でこれだけ大きな選挙を立て続けに戦い、スタートの総裁選以外は大勝し続けた。

こうしたリーダーは過去いなかったし、今後も出る事はあるまい。まさに安倍氏は我国政治史にその名を印す、歴史上の存在となったのである。

わずか六年前、刀折れ、矢尽き、倒れた安倍氏と同一人物とはとても思えない。

何故ここまで一人の人間が変わり得たのか。

勿論、この間の安倍氏の努力もあっただろう。しかし何より、周囲の多くが止めたにもかかわらず、一身の利害得失を超えて、どうしても自分が今起たなければという安倍氏の捨て身の総裁選出馬への行動が、今回にいたる一連の流れの基点になった事だけは間違いあるまい。

安倍氏の憂国の想いが土俵際まで追い詰められていた我が国を救ったのである。

しかし喜びもここまで。今までの勝利は、民主党政権の悪政によって失われた時間を巻き戻したに過ぎない。

本当の戦いは、この時点から始まるのである。

おそらく国政選挙は三年間はないだろう。

次期参院選は、三年後の平成二十八年。この年は解散が無ければ衆議院も任期満了の年となる。次期大決戦の年となる平成二十八年までに安倍内閣がどれだけの成果を上げ得るかが、勝負の分かれ目となる。

この間、憲法改正へ向けての環境整備は当然進めなければならない。集団的自衛権の承認、あまりにもお粗末な各種談話の見直しをやらなければならない。時間はないのだ。

短期的にも課題は山積している。ＴＰＰ問題、東京オリンピックの招致等々、そして年内にはぜひ靖國神社に参拝して頂きたい。

しかし、当面最重要の課題は消費税増税問題だ。十五年間も続いたデフレを脱却できるチャンス、せっかく上向きかけた景気に自らストップをかける消費増税は絶対に今やるべきではない。

何も消費税率引き上げをやるなと言っているわけではない。あまりにもタイミングが悪いと言っているだけだ。

安倍氏の勇気ある決断を期待したい。

外交に目を転じれば、我国に敵対的攻勢を強める、中韓両国とどう向き合うか、まことに難題は尽きない。

しかし安倍氏には熱烈に氏を支える応援団がいる。

本会会員や、「頑張れ日本！全国行動委員会」に結集する、草の根の保守系志民グループの存在だ。

詳細は次号で報告するが、この参院選でも彼等はネットを駆使し、赤池まさあき氏を当選させる原動力となった。

安倍氏とそれを支える草莽の民との、日本を取り戻す戦いがいよいよ始まる。

徹底的に頑張ろう！

衛星放送スカパー!217CHにて、毎日夜8時より絶賛放送中!
本会 三輪和雄会長
毎週火曜日8時出演
メディアのタブーに挑戦する!
日本文化チャンネル桜
引き続き
「チャンネル桜二千人委員会」
へのご参加を!
（株）日本文化チャンネル桜
〒150-0002　東京都渋谷区渋谷 1-1-16(若草ビル1階・2階)
TEL：03-6419-3900　FAX：03-3407-2263
http://www.ch-sakura.jp/　E-Mail:info@ch-sakura.jp
お申し込み・お問い合わせは「日本文化チャンネル桜」まで

暑中お見舞い申し上げます

日本世論の会神奈川県支部長
教育を良くする神奈川県民の会代表
新井　三男

丸山　準一

ソレアードK
アパート経営
小林　節男

神奈川県会員
谷辺　勝啓

チャンネル桜二千人委員会
片桐　徳一

不動産鑑定士
渡邊　有

船橋市議会議員
中村　実

高野山真言宗　昇龍寺住職
祈願寺
http://www.syoryuji.com
河原　龍靖

千葉県御宿町
小澤　英夫

元栃木縣軍恩連盟玉生支部
支部長
直井　米一

静岡市
(株)ひらおか相談役
平岡　辰夫

日本世論の会愛知県支部
支部長
榊原　周治

静岡県護國神社崇敬奉賛会常務理事　静岡県正論の会会長
中嶋　秀次

エール株式会社
代表取締役
吉川　静雄

宮報徳会会長
小林　幸子

弁護士
尾崎　幸廣

昭和神宮御創建期成会
常任理事
町田　正己

新しい歴史教科書をつくる会
理事
伊藤　玲子

フローラルデザイナー
RGFAS主宰
友岡千代子

鳥取市東町
瀧山　敏夫

日本世論の会近畿支部
支部長
茶橋　和夫

熊沢　正幸

日本会議
愛知県本部

平成二十五年盛夏

日本世論の会福島県支部長
日本再生同志の会
佐藤　精一

株式会社展転社
代表取締役
藤本　隆之

日本世論の会愛知県支部
理事
森下　裕一

団体職員
田中　信男

団体職員
行木　義雄

頑張れ日本全国行動委員会
常任幹事
三輪　昭秀

千葉市議会議員
千葉建国塾塾長
宍倉　清蔵

頑張れ日本全国行動委員会
幹事長
水島　総

元民社党委員長
塚本　三郎

真正保守草莽会
会長
中臺　倉一

自治基本条例に反対する市民の会
代表
村田　春樹

株式会社コミン・アーツ
TEL FAX　049-293-2619
岡田　鷹子

日本世論の会愛知県支部
理事
辻　秀雄

日本世論の会愛知県支部
監事
鈴木　国明

揚名時太極拳師範
水野　淳子

日本世論の会事務局
林　玲子

日本世論の会会長
三輪　和雄

塚本三郎通信

中国との外交・原子力発電と経済

昨年中国で制作された抗日映画は、約二百本、大手放送局がゴールデンタイムに放送した抗日ドラマも七十本にのぼった。

十三億の中国人の多くは、外国に出た経験もない。朝から晩まで、反日ドラマを見続ければ反日感情も根を下ろす。

笹川日中友好基金の事業で、中国の地方大学で日本語を学ぶ学生を日本へ招く二十名を選抜したところ、親から「大切な一人っ子を危険な日本に行かすわけにはいかない。」と反対の声が上がった。結局、筆者が「日本は安全」と説得の手紙を送り、予定通り八月に事業実施となった。反日の宣伝の大きさを改めて思い知らされた。（笹川陽平）

中国における反日デモの事実は、日本企業の襲撃や日本製品のボイコットの型をとりながら、大衆の心情は政府批判の性格を強く帯びている。

富の偏在も一段と進み、人工の十％の富裕層が八十％以上の富を所有している。中国に相続税や固定資産税はない。

中国の国内の党や政府幹部の腐敗で、昨年十六万人が汚職など規律違反で処分を受けた。

中国経済の危機が叫ばれているが、実態は政治の危機ではないか。

【参議院選挙の争点は景気】

七月三日の読売新聞のトップ見出し。主要九党のうち六党の立候補予定者が「景気と雇用対策」がトップというアンケートの結果である。

不思議なことは、不況対策や雇用対策で最重要課題の一つと叫ばなければならないのは、電力料金の値上げ、即ち原子力発電問題に寄因することである。

マスコミの大半が原子力発電に冷淡である点を意識しすぎではないのか。

最も緻密かつ科学的議論が必要な原子力発電の分野で今、科学が軽視され議論が尽くされず、「思い込み先行」で結論が導き出され、国力が減殺されていくかのようだ。

そのことに目を向けず、景気回復を叫ぶのは政党と政治家の盲点である。

福島の大震災による原子力発電の事故で放射能の被害が叫ばれ、周辺住民の避難が今日もなお続く。だが、幸い原子力発電の事故現場で沈静化に努めた作業員に死者は出なかった。日本の原子力対策が優れている姿を全世界に示している。

それゆえ、世界各国はなお原子力発電の増設に力点をおく。否、日本に建設の注文すら現れている。日本が原子力発電のゼロを目標に掲げる政党を奇異に思う。

（元民社党委員長）

良書紹介

永遠の0（ゼロ）

百田尚樹　講談社文庫

幼い母と祖母を残して特攻で死んだ祖父の足跡を求めて姉弟は祖父を知る戦友を尋ね歩く。存命者数人の証言から次第に明らかになる祖父の人間像。一人の証言者から話されるマスコミ批判も痛快。

（亀山裕一）

戦争展アレコレ

世論の会員の提案で始めた『もうひとつの戦争展』も今年で十二回目（静岡では平成十三年より開催）だが、組織力と動員力では公的機関と直結する反日連の方が遥かに上。

公立の小中高各学校の〝平和教育〟やら東京「平和のための戦争展」実行委員会等四十一組織の〝反日平和運動〟を紹介する日本機関紙出版センター刊『戦争を発掘する』の一部を要約すると〈戦争体験を記録する会」は一九七六年日中友好協会大阪府連に事務局を置き発足。文集発行と共に、侵略戦争や戦時生活に関わる遺品や写真・資料展示により直接、感覚を通じて戦争の悲惨さを訴えようと、一九七七年、戦争体験を記録する会と日中友好協会大阪府連、歴史教育者協議会大阪支部の共催で『私たちと戦争』展を開催。同年、大阪読売新聞社はそごう百貨店で戦争展を開催。第一回『私たちと戦争』展は日中文化センターで開催し、以後回を重ねるごとに規模も参加者も増え、一九八二年からは通天閣の『平和のための大阪の戦争展』に合流した。この戦争展運動の中で「常設の戦争資料館を建設しよう」の声が出て、一九七九年「平和のための戦争資料館をつくる会」を結成した。

一九八一年に出発し、四年間に中央会場・ミニ展あわせて二百二十四万人の参加者を得た『平和のための大阪の戦争展』は、侵略と加害・反戦と抵抗、被害の歴史を見つめ直し、日本列島と北西太平洋が海洋核戦争の危機にある現実を、どう打開し、どんな行動をするべきか、を展示で語ろうとしてきた〉とある。

反日連の戦争展や偏向資料館設立は、初発からシナの工作員と反日教師等が日本人の理性ではなく〝感覚〟に訴えるべく企んだモノと解る。反日集会で運動指導者が「悲劇を訴える時は、効果が大きいので、子どもを上手に使うと良い」風に語ったのと通じる。

こちらも簡潔・正確と共に〝感覚〟へ訴える工夫もあるべき、と考える。

（花子）

佛説観無量壽經

俗に王舎城の悲劇という。その時、マカダ国の都にある王舎大城に一人の太子がいた。名は阿闍世（アジャセ）。調達（チョウダツ＝ダイバダッタ）に唆され、父王の頻婆娑羅（ビンバシャラ）を捕え七重の牢獄の中に幽閉し王の餓死を

待った。王妃韋提希(イダイケ)は身を浄め蜂蜜入り乳製品を麦こがしに混ぜ、これ合わせて全身に塗りつけ、装飾品の中に葡萄果汁を仕こみ、ひそかに王にさしあげた。

王は食事を終ると口を漱ぎ合掌し恭しく、当時仏陀が説法をしている耆闍崛山(ギシャクツセン)を遥拝しこのように言った。釈迦十大弟子のひとりである「大目犍連(ダイモクケンレン)は、わたしの親友である。願わくは慈悲の心でもって、わたしに八つの戒を授けたまえ」と。

たまたまその日は妃が食物を持ちこんでくれた。しかしこの先もそれができるとはかぎらない。だから王は餓死を覚悟し天上界に行くための守るべき八つの約束事を教えてもらおうと願ったのだった。

阿闍世はまた「折指」ともいう。預言者が「あの仙人が死ぬと生まれかわってあなたの子どもとなる」と王に予言した。早く子どもが欲しかった王はその仙人を殺した。果たして妃が懐妊し阿闍世が産まれた。するとまた予言する者があった。殺された仙人が王子であるから、王子が成長した暁には父親である王を殺して仙人(＝自分)の敵討ちをするだろう、と。そこで王は高い塔の上から王子を投げ落とした。ところが不思議なことに王子は小指を一本骨折しただけで命に別状はなかった。そこで「指が折れている」という意味の「阿闍世と命名された。

前世の因縁である。因は直接的原因、縁は間接的原因・環境。過去の原因と現在の結果の因果の教えである。インドの思想は輪廻転生であり釈迦の教えはバラモン教の一派とみなされていた。

いつまでたっても死なない王に疑念を抱いた王子は母の所業を知り母をも殺害しようとするが家来に阻止され母をもまた幽閉してしまう。父を殺す子は数多いても貴族の身分で母を殺す子は聞いたことも見たこともないというのだ。

目連と富楼那(フルナ)は王の願いを聞き届け、鷹隼の飛翔するがごとくに牢獄に立ち現われ、三七、二十一日間説法を続け八戒を授けた。王は心穏やかに死んでいった。

目連はどうしてその神通力で王の窮地を救ってやらないのか、とも思うが、目連自身も自分の窮地に神通力を使用することはなかった。

非常にエロい場面があったが、どこかわかりますか。

(拈華微笑)

蝉の鳴かない夏 (下×4の中)

経済協力・開発相のディルク・ニーベルは、原発技術者や作業員が大量にドイツから海外へ流出していると言う。

「それだけではありません。昨年から大学で原子力技術を学ぶ学生が激減しました。若者は原子力に将来性がないと思っています。このままでは後継者がいなくなります」

「とにかく、まず首相の原発廃止撤回宣言だ。そのうえで、返済不要の奨学金を創設する。フランスに拉致された技術者と作業員は緊急優遇措置を設けて連れ戻せ」

強硬派の副首相フィリップ・レスラーが怒鳴った。

「フランスは北朝鮮とは違います。拉致ではなくヘッドハントです。フランスへ流出した技術者や作業員は、祖国から追われるような気持ちで出て行きました。しかもフランスは彼らを優遇しています。簡単には戻って来ません」

「拉致もヘッドハントも同じだ。グズグズ言わずにさっさとやれ！」

「フィリップ、落ち着いてちょうだい。契約もあるし、すぐには戻れないでしょう。いずれにしても、ただちに原発廃止撤回宣言を出します。明日、記者会見をセットしてください。それから、石炭火力は勿論進めますが、シェールガスとメタンハイドレートの採掘についても、検討をお願いしてありましたけど、どうなりましたか」

「はい、可能性のあるのはシェールガスです。欧州では、わが国をはじめ、イギリス、フランス、旧東欧諸国に広く分布しております」

「それは分かっています。採掘の可能性を聞いています」

「わが国の技術力をもってすれば、技術的問題はありません。問題は政治的障壁です」

シェールガスは、高圧水で岩盤に亀裂を入れて取り出されるが、その際使われる大量の水や化学薬品が環境に与える影響が懸念され、欧州では、シェールガスへの対応は二分していた。イギリスとポーランドは資源確保に重点を置き採掘に踏み切った。一方、フランスやブルガリアは、環境保全に重点を置き採掘禁止措置を取っていた。ドイツはその中間にあって、どちらかと言えば慎重姿勢を取っていた。ところが寒冷化に伴い、ドイツが採掘に傾く気配を見せると、フランスが突如強硬に反対姿勢を示し始めた。EU全体の合意がなければ、勝手な採掘は認められないと言い出したのである。

「イギリスやポーランドが採掘に転換した時、フランスは黙っていたじゃないですか」

「寒冷化で当時とは取り巻く環境が激変しました。それに、イギリスとポーランドはEU加盟国ですが、ユーロ圏には入っていません。今までも、都合の良い時はEUを利用し、都合が悪いと知らん顔です」

「フランスのシェールガス埋蔵量は欧州最大です。反対する理由がないでしょう」

「表向きは環境保全です。シェールガスを取りすぎると大地震が起きるなどと根拠不明のことまで言いだしていますが、本音は得意の原発の売り込みと電力の高値輸出です。そのために、シェールガス封じ込めを狙っています」

「高慢ちきのイギリスと下司のフランス。金融危機の時はギリシャに悩まされ、何かにつけて足を引っ張るのはフラ

ンス、イタリア、スペインの女たらしラテン三兄弟。EUには飽き飽きしたわ。高貴なるゲルマンの居るべき場所ではありません。明日の記者会見で宣言します。EU脱退！マルク復活！ハイル・ヒ・・・」

「姫、ご乱心！」

（以下次号）（笹竜胆）

海底人8823

戦後レジームとは何か

戦後レジームの脱却は、今更言うまでもなく、最終目標ではなく、第一関門である。最終目標はあくまで、日本を取り戻すことにある。

では、我々が脱却すべき戦後レジームとはどういうものか。一言でいえばヤルタ体制の継続であり、白人社会にとって唯一にして最大の脅威である我が日本を、永久に封じ込める体制に他ならない。つまり、戦後の世界秩序それ自体のことである。

そして今や、アメリカの思惑を遥かに超え、国内に反日分子という癌細胞が増殖して、目も当てられない有様である。彼らは自分の祖国を愛するという、ごく自然な感情も持ち合わせない異常者であり、もっとはっきり言えばカタワである。

要するに、戦後レジームの脱却とは、国内の異常者を一掃する日本の再生であることは言うまでもないが、それのみに留まらない。戦後の世界秩序自体への挑戦であり、世界そのものの変革、人類がまだ見ぬ、新しい世界の創造に他ならない。それが、我が日本の聖なる使命なのである。

（海底人）

負け惜しみ第一声

六月二十四日のTBS「みのもんた朝ズバッ！」は、前日の東京都議選を冒頭で総括した。

共同通信・柿崎明二氏「参院選の前哨戦というより、総選挙の延長線上にある。与党の調子がよく、野党が割れれば相対的に与党が勝つ。不戦勝に近いところもある。アベノミクスが信任されたのではない」、弁護士・大渕愛子氏「投票率の低さが気になる。組織票を持つ自民党が有利なのは明らかで、その中でみん党は七議席を獲得した。国民の信任は得ているのではないか」、みのもんた氏「以前、投票率六十％を切ったら無効にすべきとテレビで言ったことがある。そのための不在者投票制度もある。暴論かもしれないが残念だ」、池田健三郎氏「限られた人による投票の結果というイメージは否定できない。都政にも政策論争があるが、その中身が出てこない。だから低投票率になった」

野党の選挙協力が…、投票率が…、月曜早朝から負け惜しみ大会である。（岩間直樹）

野党応援キャンペーン

六月二十四日のテレ朝「報道ステーション」は都議選を受け、参院選を展望した。

時事通信・田﨑史郎氏「自民に投票したくない人は必ずいらっしゃるが、民主への失望は消えていない。第三局は内輪もめしていると見ている。共産が伸びた一つの要因だ。都議選で民主は共産より二議席少なかったが、得票率は上回っている。候補者調整の失敗だ。参院選で共産が野党第一党になることはない」、朝日新聞・恵村順一郎氏「民主・維新・みんながバラバラだと、自公に勝てない。とはいえ、参院選公示は来週なので、選挙協力は無理だ。であれば民主は共産を参考にすべき。共産は都議選で反アベノミクス、反原発、改憲反対をハッキリ主張し、受け皿になった。民主は反原発を掲げなら、政権に対抗しようとしない。維新も政権にすり寄る姿勢が見える。参院選後は約三年、大きな選挙がない。であれば今回の参院選は大事だ。野党は挑戦者の気概を持って対立軸をしっかり掲げないと、自民の補完勢力になり、溶けて消えてしまう」

ここで古舘伊知郎氏に番組スタッフからメモが届き、「みんなの党は、今は内輪もめしていない。フォローするコメントをもらえ」との内容を紹介、田﨑氏が「同党は都議選で七議席と頑張った」と応じる一幕があった。

番組全体で何とか野党を応援しようとする姿勢に、呆れるばかりだ。前述の田﨑氏の「いらっしゃる」発言など、聞き流してしまいそうだが、ホンネが見え隠れする言葉遣いである。

（岩間直樹）

またも野党ステーション

六月二十八日のテレ朝「報道ステーション」は、ネットでの党首討論を受け、参院選を展望した。

御厨貴・東大教授「野党は経済を攻めるのは無理だ。アベノミクスは気分なので、批判は水掛け論になる。安倍首相の掲げる、脱占領、脱戦後、安保や改憲、歴史認識などで戦っていくのが野党として大事だ。それをやれば、だんだん安倍さんのホンネが出てくる。彼は参院選までは逃げ切ろうとしている。それを引きずり出すのが討論の意味だ。民主党は海江田代表が孤軍奮闘しているが、与党時代に幹部だった人の顔が見えない。政治家は負けたときが勝負だ。負けたときに反転攻勢、とにかく馬車馬のようにやっていくところに、人は感動する。普通の人と同じように、負けたときにクシュンとなっていてはダメだ。国民は『待てよ』との考えから『ねじれ』を選んできたとの見方もできる。同時に従来の自民党を見ていると、衆参が不仲だ。ねじれが解消したからといって、一枚岩になるとは思わない」

きょうも必死にカラ元気で野党応援、お疲れ様。

（岩間直樹）

米国をダシに

七月二日のテレ朝「報道ステーション」は、参院選の争点としての外交、そのなかで歴史認識を特集した。米国のキャンベル前国務次官補やシーファー前駐日大使の関連発言を流したほか、オバマ大統領が北朝鮮対策上、日韓関係悪化に懸念を示したと伝えた。

古舘伊知郎氏「米国の発言を全面肯定する気はないが、何を分析・整理するか大事だ」、朝日新聞・恵村順一郎氏「米国の懸念は三つある。一つは安倍首相が『侵略の定義が定まっていない』と言って中韓が反発する。これによって東アジアが不安定になる。それによって米国の国益も損なわれる。二つ目は河野談話見直しによって、人権国家としての米国が反発する。三つめは、日本は敗戦後、サンフランシスコ講和条約によって国際社会に復帰した。そのA級戦犯が靖国神社に祀られ、そこに首相や閣僚が参拝すれば、先の大戦の戦争責任を否定しているうと受け止められる。橋下市長の発言もあった。この問題は与野党ないので、熟慮して慎重な発言が望まれる」、古舘氏「近隣外交、特にこの問題を突き詰めれば、経済問題とイコールになる。冷静に見て、進めることは進めないといけない」

米国に経済、あらゆるネタを使って歴史認識を封じ込めようとする番組、力みすぎだ。

（岩間直樹）

ムチャな対韓友好要求

七月五日のTBS「NEWS23」は、岸田外相やブリンストン大学・フリードバーグ教授のインタビューを織り交ぜながら、安倍首相の外交姿勢を論評した。

藤原帰一・東大教授「安倍外交は成果を上げている。日米関係を安定させながら、東南アジア、ミャンマー、トルコ、サウジアラビアなど訪問して、インド首相は訪日した。日本が関わっていくことで、中国の影響を弱めている。軍事・外交両面で中国に対抗していく姿勢ができたが、問題は日韓関係だ。中国との関係は、中国が急進的なので、日本よりも中国が問題をおかしくしている。日韓関係では、歴史問題で韓国政府が強硬だ。両国関係が動かない。フリードバーグ氏が、首相の歴史認識に言及したのは、日韓が動かないことに対する、米国政府のいらだちを示している」米国をダシに韓国への譲歩を促す、いかにもマスコミが考えそうな姑息な手段だ。

（岩間直樹）

またしても韓国に気を遣う

七月十一日のTBS「みのもんたの朝ズバッ！」は、戦時徴用でソウル高裁が新日鉄住金に賠償を命じた判決を取り上げた。

小松成美氏「日本統治時代があったので、韓国の方の苦しみは想像に難くないが、昭和四十年に国同士が約束した。これを今、一つ一つやり始めたら、どうなってしまうのか。日韓関係がまた危うくなると心配になる」、北川正恭・元三重県知事「政府間協定なので一貫して言わざるを得ないし、言うべきだ。もう一方で、日韓の賢人会議で徹底的に議論しないと、また日韓関係に溝ができる。政府は頑張らなければならないが、東アジアの秩序を構築するときに来ている」、パトリック・ハーラン氏「条約締結時と今では、互いの国力に差も出ている。世界的な評判を見ると、日本は戦時中の行為に対する反省が、ドイツなどと比べて見られない。日本と韓国、双方の立場を考えて解決に向かわなければならない」、みのもんた氏「いつまでも引きずっているわけにも行かない」

韓国は、もはや契約一つできない国だ。その現実に見て見ぬふりを決め、気を遣う。テレビは末期的状況だ。

（岩間直樹）

ポリネシア人の起源

第二次大戦直後の1947年、ノルウェイの人類学者・冒険家トール・ヘイエルダールは南米ペルー沖から帆つき筏に乗って南太平洋を西に向かって航行した。この筏を「コン・テイキ号」という。これが最近映画化され、6月29日から日本で封切りされた。これを機に来日したヘイエルダールの長男で、オスロのコン・テイキ博物館館長でもあるトール・ヘイエルダール・ジュニアをジャーナリストの庄子かおりがインタビューした。この記事 Heyerdahl's Kon-Tiki adventure still inspires（ヘイエルダールのコン・テイキ号冒険が人々を励ましつづける）が6月28日ＪＴに大きく掲載された。この航海の目的はポリネシア人の起源及び、アメリカ先住民が太平洋を横断してポリネシアに渡った可能性を実証することだった。

18世紀後半、英国人キャプテン・クックらは三回にわたって太平洋ポリネシア一帯を広く航海した。彼らが驚いたのは、どこの島にもすでに人がいたことだ。しかも互いの言葉が似かよっていることにも気がついた。ポリネシア人はどこから来たのかが論議されてきた。太平洋の赤道地帯では恒常的に東風が吹き東から西に流れる海流がある。これに乗って南米太平洋岸から帆船でポリネシアに広がったのではないかとの説が有力になった。つまりポリネシア人の起源は南米大陸にあるというものだ。この説を実証しようとしたのがヘイエルダールのコン・テイキ号航海だ。

しかし、この説は今では否定されている。ポリネシア人の言語はインドネシアやフィリピンの言語と同系のオーストロネシア語に属する。これらの言語を話すオーストロネシア人は、五・六千年前に中国南部沿岸部にいた稲作農耕民だった。彼らはやがて帆つきダブルカヌーをつくって台湾

に移住し、その後フィリピンからインドネシア方面、さらに太平洋ポリネシアへ広がっていった。一部はインド洋を超えてアフリカ近くのマダガスカルまで行っている。これが最近の定説となっている。問題は、太平洋に広がる際、東風に逆らってどうやって帆船で西から東に行けたかということだ。一九八〇年代にハワイ大学の教授を中心にしてポリネシア人が使っていた帆つきカヌーを再現し航海に出た。目的は、帆船でも風に逆らって進むことができるかどうかを実証することだった。分かったことは、タッキングつまり風に向かってジグザグに進めば逆走も可能だということ、及び、赤道地帯では一時的に西風が吹くことがあるということだった。これにより、ポリネシア人のインドネシア方面から太平洋への航海が可能だったことが実証された。彼らはメラネシアでラピタ土器を作成し、ジャレド・ダイアモンドによれば特急列車のように急速にポリネシアへ拡散していったようだ。わずか千年ぐらい前にハワイ、イースター島、ニュージーランドなど居住可能な島々に住み始めたとされる。

（五十嵐岳男）

反韓デモがなぜ起きたかを考えない論説

在特会などによる新大久保での反韓デモに関する論説が6月23日JTに、Hate speech、in the media, but not the legal code（メデイアでは「ヘイトスピーチ」だが、法規制されていない）が掲載された。執筆者はJT定期コラムBIG IN JAPANに継続的に論説を載せているマーク・シュライバー氏だ。表現の自由を保障した憲法21条や、権利の濫用を禁じた同12条を挙げている。ジャーナリストの烏賀陽弘道氏は、I, a purist in protection of free speech, even when it accords people the right to 'offend, others（たとえ表現の自由により人々が他者を「傷つける」権利を与えられるようになっても、自分は純粋に表現の自由を擁護したい）とJTに語ったようだ。これに対し、シュライバー氏はSpeech that advocates hatred, discrimination or violence against a particular ethnic, religious or cultural group should not be socially allowed（特定の民族、宗教、文化集団に対する憎悪、差別、暴力を容認するスピーチは社会的に許されるべきではない）と言う。さらに、…Japan has a very short history of democracy, civil rights and citizens、freedom…（日本には民主主義、市民権及び市民の自由について非常に短い歴史しかない）とも言う。シュライバー氏は、なぜこのような反韓デモが起こってきたのか考えてみたこともないようだ。『WILL』8月号でノンフィクション作家の門田隆将氏が「事件の現場からヘイトスピーチで思うこと」で反韓デモが起きている原因を分析している。・・・日本人は長い間、「辛抱」を美徳としてきた。しかし、歴史をねじ曲げたあまりにひどい中傷によって、ついに日本人が堪忍袋の緒を切りつつあることを感じる・・・と言う。また、『ネット右翼の逆襲』（総和社）の著者である古谷経衡（つねひら）氏も言う・・・いわゆるネット右翼は、韓国寄りの報道をしてきた既存マスメデイアに対するアンチとして、ネットを通して声を挙げ始めたのだ。また、有田芳生氏や安田浩一氏ら、ヘイトスピーチを批判する人たちは本当は嫌韓そのものがいけないと考えているのだ・・・そのとおりだろう。（五十嵐岳男）

いつまでも過去を言う卑怯さ

6月29日JT記事South Korea, China put six-party pressure on North（韓中、北朝鮮に対し6ヵ国による圧力をかける）が掲載された。中韓首脳会談では北朝鮮問題が主たる議題で、歴史認識問題は話題にもならなかったようだ。日韓会談とは雲泥の違いだ。この直後の7月1日、ASEAN開催地ブルネイで日韓外相会談が9カ月ぶりに開かれた。韓国外相は、例のごとく、「軍国主義の歴史の美化を止めよ」などと歴史問題に踏み込んだ。この点に関し、6月29日産経「緯度経度」で黒田勝弘氏が「中韓 過去抜き〝蜜月ムード〟」と、日中両国に対する韓国側による対応の違いを述べている。韓国は朝鮮戦争や南北分断など、中国に対し戦争責任、侵略責任を問うべきなのに、政府もマスコミも黙っているという。日本に向かってはあれだけ声高に「過去」を繰り返しているのに、この違いは何か。要するに、中国側に歴史問題をいくら持ち出しても相手にされないのに、日本側はずっと応じてきたことによるのだそうだ。

7月3日産経に曽野綾子氏が「いつまでも過去を言う卑怯さ」を載せている。・・・人の過去ばかり責める人と、私は友だちになれない。この言葉は国レベルについても言える・・・他国の過去ばかり責め

講演のお知らせ　日時　平成25年8月21日（水）
午後6時半～
演題　『中国バブル崩壊への序章』
講師　『宮崎　正弘』作家・評論家
事前予約 不要
お気軽に
お越し下さい
◎ 場所　大手町サンケイプラザ三階（地下鉄大手町駅E1）
◎ 参加費　一般1500円、学生1000円
主催　正論の会（代表　三輪和雄）お問い合わせ:03-3407-0637

る国とは、友好関係を結べない。

（五十嵐岳男）

在日外国人は搾取されている？

記事タイトルにsex slaveとあったので読んでみた。7月4日JT記事Former Thai sex slave decries visa-free entry to Japan（タイの元性奴隷が日本へのビザなし渡航を非難）とのバンコク発の共同電だ。2000年代初期にビザなしで日本に渡り、数か月間過ごしたタイ女性が悪質業者に騙されて性奴隷にされたというものだ。タイ女性がビザなしで日本に行くことはdouble-edged sword（両刃の剣）だと言う。記事中にWhen I arrived at Narita airport, …a Thai lady and an Indonesian man picked me up…（成田空港に着くと、タイ女性とインドネシア男性が出迎えに来て・・・）とあるから、日本を舞台にした外国人の悪質業者に騙されたようだ。しかしタイトルだけ読むと、日本人業者が関わっているように思ってしまう。同様な記事は、7月3日JT記事Rights activists demand end to exploitive trainee program（人権活動家が搾取的な研修生制度の中止を求める）にもある。外国人研修生制度がhuman trafficking（人身売買）に当たるとして、同制度の問題点を指摘する記事だ。Solidarity Network with Migrants Japan(SMJ)「移住労働者と連帯する全国ネットワーク」（移住連）が6月29日に開いたシンポジウムをJT記者が取材したものだ。写真には「使い捨てにされる人々人身売買大国ニッポンの現実」と大きく書かれている。在日外国人が日本で搾取されていると言いたいのだろうが、研修生制度が人身売買とは恐れ入った話ではある。

（五十嵐岳男）

相変わらずの安倍改憲論批判

6月下旬のJT紙面が3回にわたって批判している。6月25日Tweak the Constitution now, think later?（先ず憲法をひねって、後で考えてみればということか？）は同志社大学法科大学院のコーリン・ジョーンズ教授による改憲反対論だ。96条改正を先行させようとする安倍首相を批判する。同29日Abe wants to gut public protections: expert（専門家曰く。安倍首相は公的保護を内部から破壊しようとしている）は6月14日に東京で開かれた「96条の会シンポジウム」で講演した樋口陽一東大名誉教授をJTのオータケ・トモコ記者が取材したものだ。また、同30日Constitution revision and rights: Abe's proposals appear all wrong（憲法改正と権利、安倍首相の提案は全て間違っているようだ）は、毎日曜日の定期コラムCOUNTER POINTを担当しているテンプル大学日本校のジェフ・キングストン氏の記事だ。いずれも安倍首相の改憲論を批判している。

「記事は全て公平に」がJT編集方針のはずだ。たまには改憲派の意見も載せてはどうか。

（五十嵐岳男）

サヨクにカツ

お辞儀を取り戻す！

近頃変なお辞儀が流行っているのを御存知？特にデパート、スーパーなどの店員。高島屋へ行ってびっくりしたわ。なぜかお腹のおへその上あたりに両手を重ねて立っている店員が、そのままの姿勢で歩き、客の話を聞き、そのままの姿勢で取ってつけたようなお辞儀をするのよ。お腹の上に手を置いていれば当然両肘は横に張ることになるわね。それで頭を下げるんだから、気取っているというか、滑稽というか、やっぱり変。

ところが彼女たちはこれが美しいポーズだと思っているらしいのよ。それも当然で、マナー講師がそう教えているんだから。行儀作法とは無縁の学生時代を過ごした女の子がいざ会社に入って上の人にそう教えられたら、それが正しいお辞儀の仕方と信じ込んでしまっても不思議じゃないわ。そして真面目な人ほど、忠実にやってしまうわけよ。

このおかしなお辞儀を教えているマナー講師の前身はスチュワーデスが多いみたい。この人たちがどんな資格と根拠で、正しい美しいお辞儀とやらを教えているのか、さっぱり分からないけど、この世界はどうやら言ったもん勝ちらしくて、今やこの変てこなお辞儀が日本中に恐ろしい勢いで蔓延しつつあるのよ。この下品な肘張お辞儀は、勿論間違ったお辞儀で、日本の伝統に反しているわ。

いつ頃からこんなお辞儀が流行り出したのか、この件に詳しい「記憶の痕跡」というブログに、デパートガールの写真の変遷が載っているのだけれど、それによると戦後まもない頃は、手を前で重ねたりせず、横に自然に下げているわ。80年代90年代は両手は重ねてはいるけどやはり自然に下がっているわね。

公論

民主党解党のススメ

埼玉県　中野信一

今回の都議選、参院選の結果からわかるのは、「もはや民主党への逆風は、候補者個人の地道な努力で挽回できるものではない」という事だ。

今の有権者は「実績」よりも「イメージ」で投票している。極論を言えば、「見栄えが悪いが、権謀術数にたけた能力のある政治家」より「ルックスはよいが、実力のない政治家」が選ばれているのだ。

政治家の選び方としては非常に違和感がある。しかし、これが現実だ。

会員の声

今回、民主党でも保守派の、実績のある候補が次々と消えていった。もう地道な努力で挽回できるレベルではない。筋を通して民主党で戦った保守系候補よりも、離党して政党を転々とした候補を有権者は選んでいる。

とはいえ、民主党政権自体が、ある意味「軽薄」な有権者の判断で生まれたものだ。そういう意味では「元に戻っている」とも言えるだろう。

もはや解党しか、道はない。

▼投稿規定▲

投稿には住所、氏名、職業、電話番号を明記。

意見、批判など自由に、縦書き、一行十三字三十行以内を厳守。

〆切　毎月二十日

送り先　当会事務局宛。

それが世紀が代わるといつの間にか手の位置がどんどん上に上がって、今やお腹イタイイタイのポーズから、商人揉み手ポーズ。いずれ、犬のちんちんポーズになるのもそんなに遠い日ではないわね。

このお辞儀は実は朝鮮式のお辞儀にそっくりなのよ。偶然かどうか、２０００年頃から冬ソナなどの韓国ドラマがどんどん入ってきたでしょ。

例の仕掛けられた韓流ってやつ。そのころからなのよ、このお辞儀が流行り出したのは。今ではあまりにも普及してしまって、元をたどるのは難しいけど、でもこれが正しいお辞儀だと勝手に言ってのけるずうずうしさこそが朝鮮式の証拠じゃない？柔道も生け花も茶道も剣道も歌舞伎も全て韓国起源だと主張してはばからない、あの妄想民族の考えそうなことじゃないの。

今ではデパートの職場体験で、子供にまでこの朝鮮お辞儀をやらせているのよ。

この変なお辞儀を広めている自称マナー講師たちのマナーとは、一言でいえば自己啓発。自分を高く売り込むのが目的なのよ。気取ったお辞儀も、つまりは「私は美しい、私を見て」ってこと。相手への礼儀とか感謝の気持ちはないわ。それにしても彼等がここまで幅を利かせ、それを許しているとは、一流デパート、一流企業といえども、礼法に通じた人がいない証拠で、何ともお寒い話だこと。

ニッサンガールも・・・
あーあ、巫女さんまで

たかがお辞儀と言うなかれ。お辞儀は日本の文化なのよ。日本人の心を端的に表すものよ。今私達は文化侵略の真只中にいるわ。静かなる密やかなる侵略よ。このまま放っておいたら、このおぞましい朝鮮お辞儀に違和感を感じなくなり（今でも感じない人が多い）取って代わられてしまうわ。デパートやスーパーで見かけたら、すかさず「あなたのお辞儀変です」と声を掛けてあげてください。（玲）

全国比例狂騒曲

参議院の全国比例区の選挙はやはり難しかった。というのも、「有権者が選挙制度を理解していない」という大きなハードルがあるからだ。

「選挙区の支援者が限られていても、全国ならなんとかなる」と思い込んで活路を見出して、衆議院から参議院に鞍替えする候補は多い。

「全国区は政治家の墓場だ」と言う言葉があるぐらい、皆同じ勘違いをして、そして消えていった。

しかし、例外はある。

例えば山谷えり子議員。日本会議を筆頭に、保守系団体がまとまって応援した。（最初は民主党の衆議院議員だった（離党→保守新党→安倍氏の引き抜きで自民党）という過去を覚えている人はほとんど

いない、今や保守派の有力議員だ。）

いずれにしても、「支援者に個人名を書くという選挙制度を理解させる」という大きなハードルをクリアするには、「組織があるか」「圧倒的な知名度があるか」しかない。そういう意味では街頭演説や戸別訪問と言った「選挙の王道」が全く通用しない選挙だといえる。

今回、赤池まさあき候補の当選は、保守派の力、とくにネット選挙解禁による効果が大きいと言えるだろう。従来の常識では苦戦が予想されていたが、まさかの上位当選には筆者も驚いた。保守系候補が多い中、誰に入れたらよいか迷う人も多いが、ネットの呼びかけが大きな力になったのは間違いないだろう。

今回も、落選した衆議院からの鞍替え候補が、与野党問わず多かった。筆者から見たら、「そもそも、なぜにまた全国区に出ようと思ったの？」という候補者だ。やはり「理念なくして全国比例区は戦えない」という事を実感した。

同時に、有権者に浸透していない現行の選挙制度はいよいよ見直しが必要になってきたと思わざるを得ない。

（ジャーナリスト・林田有香）

各地の支部便り

愛知県支部便り
月例会の報告

月例会が参議院選挙投票日前日ということで、まず選挙戦の話題から。自民党の勝利は間違いないと思うが、赤池まさあきさんが当選できるかどうか心配である。かなり難しいのではないか。また愛知選挙区で共産党候補が議席を得ることになっては恥ずかしい等。

話は変わって韓国流のお辞儀の仕方がいつの間にか日本中のホテルなどに浸透してしまっている。パナソニックのテレビ「スマートビエラ」の登場は革新的で地上波がCMを拒否する程、TV局の終焉が具体的に始まった感を得た。など話し合われた。

さて、この原稿を書いている二十一日（投票日）夜、愛知選挙区で共産党候補の落選、そして深夜なんと赤池さんの当選が確認でき会員同士電話やメールで喜びを分かち合うことが出来た。我々保守の草の根が参議院全国区で議員を一人当選させる力を示せた選挙であった。時代は確実に変わったのである。

八月の月例会は戦争展の為お休みします。次回は九月です。

神奈川県支部定例会

日時　八月二十日（火）
午後三時十五分～五時三十分
場所　かながわ県民センター七〇八号室（ＪＲ横浜駅西口「ヨドバシカメラ」裏手）
会費　五百円

近畿支部便り

①　七月の勉強会は活動方針のひとつ「自治基本条例」の拡大阻止に向けて情報交換を行った。大阪茨木市で「市民条例」制定阻止の先頭に立つ茶橋支部長が現状報告を行い、徳島県鳴門市で制定された条例の問題点の検討。その他湖南市、姫路市、生駒市の情報を交換した。左翼勢力は国家の崩壊の目的のため過去の破壊活動（動）から市民協働活動（静）に方針変換している事を理解し、この危険性を広くアピールする必要がある。

＊大阪枚方市では本条例成立阻止のための意見交換会を地元議員にも呼びかけて行われるので、お近くの方はぜひ参加下さい。

◎日時・会場８月１０日（土）
一時より　「枚方市民会館」
◎主催　「わが町を考える会」
◎問合せ　茶橋
090-3627-4701

②　平成二十五年度戦没者追悼祈念講演会のご案内

◎八月十五日（木）
十四時～十六時半
◎会場　大阪護国神社内　住之江会館（地下鉄住之江公園下車）
◎講師　佐波　優子　氏
◎参加費　無料
◎主催　日本会議大阪
英霊にこたえる会

今月の会員懇談会

本会会員の懇談会が八月も三輪和雄会長が参加して行われる。お気軽にご出席下さい。

◎名称「正論を語る集い」
◎日時　八月十四日（水）
午後六時半～八時半
（途中入退場可）
◎場所　喫茶「モナリザ」
東京都中央区銀座四―三
◎会費　千円（飲み物付き）

事務局より

参院選が自民党大勝利のうちに終わりました。開票速報を報じるテレビはショックを隠せず、ＴＢＳの関口宏などは、終始苦虫を噛み潰したような顔を画面に晒して視聴者を不快にさせていました。街頭インタビューも安倍政権に否定的なコメントばかり。これが本当なら、なぜ自民党が勝てたのでしょうか。嘘つき偏向報道のマスコミこそ、安倍政権最大の抵抗勢力です。

事務局へのご連絡は
TEL　052-822-6621
FAX 052-811-2660
または
070・5031・8166（林）
070・5031・9926（水野）

みたままつり　靖國神社七月十三日　撮影・その道の業界人